黄川田内閣府副大臣

FIN/SUM 2022　閉会挨拶

2022年３月 30 日【ビデオ出演】

内閣府副大臣の黄川田仁志です。フィンサム（FIN/SUM）2022・金融庁シンポジウムの閉会に当たり、主催者としてご挨拶申し上げます。本日は、今回で６回目の開催となるフィンサムにご参加いただき、誠にありがとうございました。また、開催にご尽力いただいた共催者の日本経済新聞社にも感謝申し上げます。

今回のテーマは、「スケーリング・ファイナンス・フォー・サステナブル・グロース（Scaling Finance for Sustainable Growth）」でした。すなわち持続的成長に向けて、現在そして未来の金融がどうあるべきかについて、当局関係者に加え、金融機関、フィンテック企業、研究者など、多方面でご活躍されている様々な立場の方々にご議論いただきました。

ここで金融サービスの歴史を振り返りますと、お金を預ける時や預金を引き出す時には、通帳と印鑑を持って銀行窓口まで行かなければならない時代がありました。その後、ATMの登場により、休日でもお金を銀行から出し入れすることができるようになりました。最近では、インターネットバンキングを使って、オンラインで、決済・送金することはもちろん、利用者が金融業以外の企業から商品・サービスを購入・利用する際に、金融機関を意識することなく、金融サービスを受けることも可能となっています。例えば、一見すると金融業を行っていない事業者が提供するアプリで商品購入だけでなく、送金や資産運用、アプリの

利用実績等を用いた与信などの金融サービスを利用できるものがあります。こうしたいわゆるエンベデッド・ファイナンス（Embedded Finance）は、金融機関やフィンテック企業だけでなく、非金融企業がそれぞれの強みを活かし、手を組むことによって実現しています。このほかにも、ブロックチェーン技術を活用した暗号資産や分散型金融といった新しい領域のサービスも生まれています。

日本でATMが初めて利用されたのは50年以上前ですが、50年前に今の状況を予想できていた人は誰もいないでしょう。そして、今から50年後において、金融サービスがどのように進化しているのかを予想することも、また困難であります。しかし、一つ分かっていることは、金融サービスがどのように進化しようとも、社会全体にとって価値あるサービスを展開するべきである、ということです。そうした観点から、新型コロナ感染症による非対面ニーズや、気候変動問題を踏まえた環境対策を行うニーズといった足許で起こっている様々な社会問題に応える金融サービスが登場してきていることについて、大変心強く感じております。こうした歩みを加速するためには、金融のデジタル化の進展が欠かせず、関係者が責任を持って積極的に推進していく必要があります。

最後になりますが、日本の金融が価値を生み出し、経済の持続的成長に貢献していくためには、当局・民間、金融・非金融を問わず、協働していくことが重要だと考えます。今回のフィンサムが皆様にとってこうした協働の一助となることを祈念いたしまして、本日の閉会の言葉とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

（以　上）